

情報学学位プログラム(博士後期課程)

情報学学位プログラム(博士後期課程)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBTW211	情報学セミナーa1	2	1.0	1・2	秋ABC	随時		吉田 右子, 鈴木 伸崇, 照山 絢子, 情報学学位プログラム(博士後期課程) 指導教員	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスをもらえる機会を持つことである。情報学セミナーaは秋学期に開講する。	日本語と英語で開講。研究指導科目 オンライン(同時双方向型)
OBTW212	情報学セミナーa2	2	1.0	1・2	秋ABC	随時		吉田 右子, 鈴木 伸崇, 照山 絢子, 情報学学位プログラム(博士後期課程) 指導教員	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスをもらえる機会を持つことである。情報学セミナーaは秋学期に開講する。	日本語と英語で開講。研究指導科目 オンライン(同時双方向型)
OBTW213	情報学セミナーb1	2	1.0	1・2	春ABC	随時		吉田 右子, 鈴木 伸崇, 照山 絢子, 情報学学位プログラム(博士後期課程) 指導教員	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスをもらえる機会を持つことである。情報学セミナーbは春学期に開講する。	日本語と英語で開講。研究指導科目 オンライン(同時双方向型)
OBTW214	情報学セミナーb2	2	1.0	1・2	春ABC	随時		吉田 右子, 鈴木 伸崇, 照山 絢子, 情報学学位プログラム(博士後期課程) 指導教員	文理融合の学際的アプローチにより情報社会の諸課題を解決する人材を養成する目的のために、情報学学位プログラム所属教員が、情報学学位プログラムに所属する学生の研究指導をインタラクティブな形式で行う。本授業の目的は、受講生が研究の進捗状況を複数教員の前で発表することで、研究室を超えた形で博士論文のための研究についてアドバイスをもらえる機会を持つことである。情報学セミナーbは春学期に開講する。	日本語と英語で開講。研究指導科目 オンライン(同時双方向型)
OBTW231	研究インターンシップ	2	2.0	2	春ABC	応談		呑海 沙織, 小泉 公乃, 高久 雅生, 松村 敦	国際研究機関、国立研究所、企業の研究所、大学の研究室等、所属する学位プログラム以外の組織で研究活動に従事する。研究テーマは受け入れ先の指示に従う。最先端の研究に参加する機会を得るほか、共同研究を経験することにより、研究者同士の議論の仕方、研究の進め方や成果のまとめ方に様々なスタイルがあることを学び、研究に貢献する。研究インターンを募集している研究機関に応募するほか、個別に受け入れを交渉してもよい。	実践指導科目 オンライン(同時双方向型)
OBTW232	研究指導実践	2	2.0	2	秋ABC	応談		池内 淳, 藤澤 誠, 若林 啓	将来、大学教員になって研究指導を行うことを想定し、学群生の卒業研究指導を当該指導教員の監督下で行う。前半の講義で研究指導に様々なスタイルがあることを学び、卒業研究の研究指導の流れと要点について理解する。後半の演習で、学群生のプレゼンテーションや論文の執筆に関わりながら実際に学群生の研究指導を経験し指導スキルを修得する。	実践指導科目 その他の実施形態 第1-2回はオンライン(オンデマンド型)、第3回はオンライン(同時双方向型)、第4回はオンライン(オンデマンド型)、第5回はオンライン(同時双方向型)、第6回はオンライン(オンデマンド型)、第7回はオンライン(同時双方向型)、第8回はオンライン(オンデマンド型)、第9-10回はオンライン(同時双方向型)
OBTW233	PBL	2	2.0	1	春ABC	応談		上保 秀夫, 歳森 敦, 長谷川 秀彦, 真楽城 哲也	専門職につくことを想定し、問題解決型の演習を行う。課題発見および課題設定は履修生が行うことを原則とし、プロジェクト進行は、PDCAサイクルののちで管理する。研究の段取りを自ら行い、進捗状況に応じてスケジュールの修正を行い、一定の成果を出すことを目的とする。担当教員に定期的に報告を行い、アドバイスをもらう。	実践指導科目 その他の実施形態 第1,5,10回はオンライン(同時双方向型)、第2-4回、第6-9回オンライン(オンデマンド型)

OBTW251	情報学総合演習1a	2	1.0	1	春ABC	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学総合演習1aは1年次を標準履修年次とし、春学期に開講する。	研究指導科目 その他の実施形態 第1回の授業で各指導教員が実施形態を説明する
OBTW252	情報学総合演習1b	2	1.0	1	秋ABC	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別総合1bは1年次を標準履修年次とし、秋学期に開講する。	研究指導科目 その他の実施形態 第1回の授業で各指導教員が実施形態を説明する
OBTW253	情報学総合演習IIa	2	1.0	3	春ABC	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別演習IIaは3年次を標準履修年次とし、春学期に開講する。	研究指導科目 その他の実施形態 第1回の授業で各指導教員が実施形態を説明する
OBTW254	情報学総合演習IIb	2	1.0	3	秋ABC	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。情報学特別演習IIbは3年次を標準履修年次とし、秋学期に開講する。	研究指導科目 その他の実施形態 第1回の授業で各指導教員が実施形態を説明する
OBTW255	情報学総合演習1a	2	1.0	1	夏季休業中	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。	研究指導科目。早期修了予定者のみ受講可。希望者は大学院教務まで申し出ること。
OBTW256	情報学総合演習1b	2	1.0	1	春季休業中	応談	佐藤 哲司, 逸村裕, 長谷川 秀彦, 綿拔 豊昭, 後藤嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。	研究指導科目。早期修了予定者のみ受講可。希望者は大学院教務まで申し出ること。

OBTW257	情報学総合演習IIa	2	1.0	3	夏季休業中	応談	佐藤 哲司, 逸村 裕, 長谷川 秀彦, 綿坂 豊昭, 後藤 嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森 敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。	研究指導科目。早期修了予定者のみ受講可。希望者は大学院教務まで申し出ること。
OBTW258	情報学総合演習IIb	2	1.0	3	春季休業中	応談	佐藤 哲司, 逸村 裕, 長谷川 秀彦, 綿坂 豊昭, 後藤 嘉宏, 森継 修一, 白井 哲哉, 歳森 敦, 吉田 右子, 呑海 沙織, 井上 智雄, 芳鐘 冬樹, 森嶋 厚行, 辻 泰明, 宇陀 則彦, 鈴木 佳苗, 鈴木 伸崇	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について博士論文の指導を行う。	研究指導科目。早期修了予定者のみ受講可。希望者は大学院教務まで申し出ること。
OBTW271	グローバル研究演習IIIa	2	1.0	1	春ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIIは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目
OBTW272	グローバル研究演習IIIb	2	1.0	1	秋ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIIは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目
OBTW273	グローバル研究演習IVa	2	1.0	2	春ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IVは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目
OBTW274	グローバル研究演習IVb	2	1.0	2	秋ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IVは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目
OBTW275	グローバル研究演習Va	2	1.0	3	春ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Vは3年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目
OBTW276	グローバル研究演習Vb	2	1.0	3	秋ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士後期) 指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Vは3年次生を対象として開講する。	履修対象者は主担当教員が指示する：(1)標準在籍期間の3年間で3回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める (2)修了要件に含まない; 研究指導科目